

4面



「自社の主力断熱材の一つと、工事のトータルコスト削減を売したのが、社会的に石綿が問題視されたのが契機。優れた低発熱性能から、最近ではクリーンルームなど、ハイテク分野での導入も増える傾向にある」と話すのは、イタリア製発泡ゴム断熱材「KIFLEX・ALCLAD SYSTEM」による空調断熱工事に注力するミヤテラ断熱(本社・東京都品川)の宮寺力也社長。

透を進めており、その中で当社足から、これら事業を承継し、空調分野を担っている。当面は、材料販売・工事を一体化し、変化無く本会社に移籍、保温、断熱断熱事業と共に、注力するアスベスト除去事業に

屋の躯体と、「ひびびり」に強いポリエチレンフィルム層の間にできる気密空間に、アスベスト層を置き、除去作業はポリエチレンフィルム越しに作業者が手作業で行うもの。仮設枠を組み立て、上からフィルムを被せる様な形で形成する。最大特長は、作業者の作業空間が、概念的にはアスベスト除去における「周辺環境」に属する点。実際には、フィルム越しに除去作業するので、作業者がアスベストに暴露する頻度が極めて少なく、安全性が非常に高い。

発泡ゴム断熱材の普及へ

空調向けに材工一体で展開

「KIFLEX」は自己消化性と耐食性を兼ね備えた難燃不燃認定取得の発泡ゴム断熱材。「ALCLAD SYSTEM」は、「KIFLEX」の表面に

「日本市場での『KIFLEX』普及は、まだ緒に付いたばかりの段階。幾つかの企業が、略できるため工期短縮ができ、それぞれの事業領域で、市場浸

ミヤテラ断熱は、保温保冷市場、とりわけ空調分野での断熱ヤテラが、小川テックのアスベスト除去技術の新工法「部分隔離アスベスト除去ラッピング工法」を、今年六月一日付で、特許申請中の開発で技術協力。

は、今、全国の労働基準監督署に有力な工法として認知いただいており今後、建築センターの審査証明(一定の件数実績が必要)を得ることで、大企業にも使いたい、やすいものとなると考えている。審査証明を得るには必要な工事件数は、(同工法全体でみると)あと二年程度で充足すると考えられるので、先行きに期待している」と語る。

KIFLEX ALCLAD SYSTEM の

拡販にも取り組むミヤテラ断熱の代表取締役社長

宮寺 力也 氏

同日に不動産賃貸業として新発 同工法は、作業現場となる部